

学校教育現場への熱中症対策システム導入検証事例 (豊中市の小学校に試験導入)



学校教育現場の課題

- ・ 児童を熱中症から守る事
- ・ 教職員が現場に測定しに行く作業負担

検証の実施

暑さ指数を遠隔管理するIoTセンサー
『熱さ指数センサー』で検証の実施



検証の効果

- ・ 児童の熱中症への未然の対応による安全の確保
- ・ 教職員の負担の軽減
- ・ ICT の活用による学校教育現場の安全管理 DX 推進



様々な場所の
WBGT値
危険度合を確認

信頼性の高い
黒球式WBGT
測定にて判定



「広い校舎から外に確認しにわざわざ行く手間が省け
児童への周知もしやすかった」

教員Y先生

「教室からいつでも確認し、児童に直ぐ
伝達ができ、グラフで変化を予測
できる事が安全管理に役立ちました」
教員N先生

PCやスマホから
いつでも確認可能



「大変便利でした。今後も引き続き使いたいです」

教員A先生

2025年6月、労働安全衛生規則が改正され、熱中症の重篤化を防止するため「体制整備」「手順作成」「関係者への周知」が事業者に義務付けられました。(厚生労働省：職場における熱中症予防情報)